



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3477 号 2017.1.23 発行

東京) 障害ある子の IT 支援実例 東大先端研で報告会 宮坂麻子



朝日新聞 2017年1月23日

児童・生徒の事例などが報告された=目黒区の東大先端科学技術研究センター

学校での学習や生活に困難のある障害児をタブレット端末などの IT 機器を使って支援する「魔法のプロジェクト 2016 魔法の種」(ソフトバンク、エデュアス、東京大学先端科学技術研究センター主催)の事例報告会が 21 日、同センター(目黒区)であった。

「読み書きや計算ができない」「重度障害でコミュニケーションができない」――。2009年に始

まったこのプロジェクトは、そんな困難を抱える全国の小中高校や特別支援学校の児童生徒と教員の 2 人 1 組を対象に毎年、参加者を公募。「iPad」などの情報端末を 1 年間貸し出し、学習や生活支援に生かす研究をしてきた。これまでにのべ約 400 組が参加し、16 年からは新たに教職をめざす大学生と大学院生も入った。

報告会には全国から約 350 人が参加した。どんなアプリをどう与えたら効果的だったか、学校の定期考査ではどんな配慮をしたか、など具体的な 26 事例が発表された。そのほかの事例もポスター展示された。

障がい者就労支援ジャンピン こだわりパン

長野日報 2017年1月23日

富士見町とちの木にある障がい者の就労支援事業所「Jumpin, (ジャンピン)」が今月で開設から半年たつ。上質の原料にこだわったパンの製造販売を手掛け、ロコミでファンを増やして生産量は当初の 3 倍に拡大。就業スタッフは現在 11 人で、今年度内にはさらに 5 人が就職を予定するなど、障がいを持つ人の生活と社会的な自立支援に向けて成果を上げ始めている。

同事業所は社会福祉法人清明会が、昨年 7 月 21 日に開設。障がい者の働く場を求める地域の声にこたえた。スタッフは、障害者自立支援法が定める雇用型(A型)の就業が 4 人、非雇用型(B型)が 6 人で、茅野市、富士見町、原村在住の 20~60 歳代。職員がサポートにあたる。

平日の 5 日間、パンの製造、直売、出張販売を行い、ロコミでファンが広がって町外からの来店も増えた。出張販売は諏訪地方の主に官公庁や公共施設で、最近では地域のイベントに参加の声もかかるようになった。

人気を支えるのは、品質へのこだわりだ。大手製粉メーカーの研究所が同事業所のために生地、焼き方を開発した。バターやチョコレート、クリーム類など具材も本場の味を取り寄せている。

季節に応じた新商品の開発にも精力的で、これまでに100種類以上を商品化した。同事業所の根村隆司就労支援部長は、「市場競争で勝てる本格的な味で評判を呼んでいる」と胸を張る。

現場では、スタッフそれぞれの得意の技術や適性、障がいに応じて作業を分担。「持ち味、特性を生かし、伸ばすように努めている。スタッフが、家庭でその日の作業や職場の話をするようになり、やりがいを感じている様子。『自分の仕事』という責任感も育ってきた」（根村部長）という。

就業希望者が諏訪地方一円や近隣県など広域から集まるようになり、障がい者の働き場所としての魅力も上がってきた | との手応えも得ている。今月、就職した富士見町内の男性（42）は、「ここの職場は雰囲気や和やか。働くのが楽しい」と話す。

今後は、給食センターへの供給や、上伊那地方へも販路を拡大する計画。パンのほか、ジビエ料理の商品開発にも取り組んでおり、2月には鹿肉料理の製品発売を目指している。スタッフの雇用も最大40人まで増やす方針だ。

根村部長は、「障がい者が安心して働け、喜びを感じられること、自信を持てることが最大の目的。それぞれの作業のプロフェッショナルを育てたい」としている。

自由造形、一心焼の力作並ぶ 施設の子供ら倉吉で作品展 産経新聞 2017年1月23日

鳥取市出身で“障害福祉の父”と呼ばれる糸賀一雄（1914～68年）にゆかりがある2つの知的障害者施設「近江学園」（滋賀県湖南市）と「皆成学園」（鳥取県倉吉市）の造形作品を紹介する展覧会「For the COLORFUL WORLD」が22日、くらしアートミュージアム無心（同市）で始まった。

生涯を知的障害児の福祉と教育にささげた糸賀は、戦後の昭和21年、戦災孤児や知的障害児らの保護施設、近江学園を設立。24年には、当時の鳥取県知事に働きかけ、皆生学園（同県米子市、皆成学園の前身）が誕生した。両学園では窯業など職業教育がなされ、そこから多くのユニークな作品が生まれた。同展は、近江学園の土の造形や、皆成学園の陶芸「一心焼」など計65点を展示している。

近江学園の作品は、子供らが「自由造形」として思いのままに形作ったもの。牛を筒の周りに無数に張り付けたり、タツノオトシゴなど生物の造形を円錐（えんすい）状に構成したりと、迫力ある作り込みの中に作る楽しさが伝わってくる。

一心焼はいったん途絶えていたが、昨年からは活動が再開。地元の土に心を込めた作品が並んでいる。同展は3月5日までで、3月8～16日には米子市の米子コンベンションセンターに巡回。いずれも入場無料。

伊佐市が専門家審査経ずに障害認定 産経新聞 2017年1月23日

鹿児島県伊佐市が、平成28年3月末までの4年間にわたり、障害者らへの支援の度合いを認定する際、法律で定める専門家らの審査を経ずに延べ239人の手続きを済ませていた。適正なサービスを受けられなかった可能性もある。市福祉課は「作業が追いつかなかった」と説明した。

松山でよしもとスポーツフェス 愛媛国体機運高めて ゆかりの芸人盛り上げ

愛媛新聞 2017年1月23日

9～10月に迫った愛媛国体・全国障害者スポーツ大会に向け、県民の参加意識を高めようと「愛顔（えがお）つなぐ よしもと大博覧会スポーツフェスティバルIN愛媛」が22日、松山市道後町2丁目のひめぎんホールと県身体障がい者福祉センターであった。スポーツ体験などを通し多くの来場者でにぎわった。

両大会の実行委員会や県体育協会、吉本興業、愛媛新聞社などによる実行委員会が主催した。



スポーツフェスティバルを盛り上げる友近さん（左）、間寛平さん（中央）ら＝22日午前、松山市道後町2丁目

会場には両大会で実施する競技の体験コーナーなどが設置され、愛媛ゆかりの芸人らが登場。円盤を投げて円形ゴールを狙うフライングディスクでは松山市出身の武智さん、田中一彦さんのコンビ「スーパーマラドーナ」が中学生と対決し競技中にも笑いを誘って盛り上げていた。

お笑い公演を目当てに家族で訪れたという松山市石井小学校4年の富永ころろさん（9）は、ロープを使わずに人工壁の突起物を使って登るボルダリングを体験し「難しかったけど楽しかった」と話した。

県えひめ国体推進局の土居忠博局長は「会場整備や競技力向上などさまざまな準備をしてきたが、最後は県民の皆さんの協力がなければ成功しない」とボランティアや応援での参加を呼び掛けていた。中村時広知事らが登壇したシンポジウムもあった。

愛媛国体は9月30日～10月10日、障スポ大会は10月28～30日の予定。

片付け下手をやめられる 1分でできる簡単アクション



日経ウーマンオンライン 2017年1月23日
(イラスト：三ツ木朗恵)

年末に意気込んで部屋を片付けたものの、もう散らかり始めていませんか？ そんなあなたに、メンタルコーチの大平朝子さんが「片付け下手をやめられる、1分でできる簡単アクション」をお伝えします。

■ 3つの「片付けられないタイプ」で分かる、あなたのウイークポイント

部屋が片付かない、モノが捨てられない。頭では分かっているけれど、いざ片付けよう

としても、いったいどこから手をつけたらいいのかわからない。片付け特集はたくさんあるけど、どれもハードルが高すぎる……。

現在はメンタルコーチとして働く私ですが、実は以前、片付けの専門家である「オカタヅケコーチ」として、1500人以上の片付けられない女性をサポートしていた経験があります。

片付けを不得意とする、多くの悩める女性を見てきた中で気づいたことは、片付けが苦手な人のパターンは3つあること。そして、片付けられない、捨てられない理由が分かると、あなたの考え方の癖も分かってくるのです。

1. 「時間がない」型

仕事や習い事、子育てに介護、人付き合いなどで多忙すぎる毎日。「疲れているから片付かないし捨てられないのよ」という方もいます。捨てたい・片付けたいと思っても、「時間がないからできない」と。

しかし、「時間がない」ことを理由にする方は、仮に時間的な余裕ができて、捨てたり片付けたりしないことが多いんです。

時間は誰にでも平等に1日24時間あるのです。ささいなことを優先するあまり、あなたにとって大事な課題や問題に向き合うことを先送りしていませんか？

時間がない中でも、「捨てる」ことができるようになると、人生の大事な課題や問題も先送りせずに向き合うきっかけをつくることができます。

2. 「ため込み」型

とにかく何でも家に持ち帰ってしまいがちなタイプ。化粧品やサプリのサンプルにはじまり、なんとなく買ってしまった雑誌や健康食品、美容グッズ、バーゲンで買った洋服やバッグなど、このタイプはとにかく家にモノが多い。

「もったいないから捨てられない」のではなく、「とにかく何でも自分で持っていたい」。コレクションすること、キープすることで、なんとなく安心し満足するのです。実は、セルフイメージが低く、自分に自信がない、小さい頃に苦勞した方に多い傾向です。

このタイプは、「捨てる」ことを通じて、モノに囲まれていなくても、誰かに認めてもらえなくても、十分価値ある存在なのだということを徐々に実感できるようになります。

3. 「もったいない」型

捨てられない理由のナンバーワンは、「もったいない」からくるもの。さらに、「もったいない」にも2種類のタイプがあります。

【もったいない型その1 持ち越し苦勞タイプ】

高かったから、いただき物だから、ブランド品だから、まだ使えるから捨てられない…という方は、「過去」に執着がある持ち越し苦勞タイプ。

メンタル面でも「なぜ、あんなことをしちゃったんだろう」「あのとき、もっと〇〇していればこんなことにならなかったのに」「あの頃は、よかったのに」などと、くよくよ悩んだり、過去を引きずりがち。



高かったモノは、捨てるににくいんですねえ (菓子制作：尾崎悠子)

【もったいない型その2 取り越し苦勞タイプ】

将来必要になったときにもう一度買うのはもったいない。もしかしたら二度と手に入らないかもしれないから捨てられないという方は、「未来」を心配する取り越し苦勞タイプ。

「仕事でミスをしたらどうしよう」「病気になるって失業してしまったらどうしよう」「恋人や家族に裏切られたらどうしよう」などと、まだ起きてもないことでもんもんと悩みがち。

どちらの「もったいない」型だとしても、今のあなたにとって必要のないモノを「捨てる」ことで、今のあなたにとって本当に必要なモノや大切にしたい価値観をはっきりさせることができます。

■汚部屋はネガティブも引き寄せる

どのタイプの人にとっても、捨てることはものすごく大事。なぜなら、人が「視覚」から受ける影響は、私たちが思っている以上にものすごく大きいからです。五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）のうち、私たち人間が最も影響を受けるのは視覚。人間の脳が視覚から得る情報の割合は8割を超えているといわれています。

ということは、要らないものがたくさんある散らかった部屋にいただけで、気がつかないうちに不要な影響を脳に受け続けています。捨てられない人は、ごちゃごちゃの部屋を見続けることで、知らない間に脳を疲れさせていることが多いのです。あなたの疲れ、イライラ、ダラダラやネガティブ思考は、散らかった部屋が原因かもしれません。

それでは、どうしたら片付けや不要なものを捨てることができるようになるのでしょうか。

■まずは身近な通勤バッグから

最初にオススメするのは、身近な通勤バッグから始めること。まず通勤バッグの中を片付けましょう。部屋の片付けはそのあとでも大丈夫！

<片付けベタをやめられる 1分でできる簡単アクション>

1. 通勤バッグの中身を全部出す
2. 自分の気持ちが上がるモノだけ選んで残す
3. 気持ちが上がらないモノは、「捨てる・代用品を見つける・磨く」のいずれかを試してみる
4. 気持ちの上がるモノだけをバッグに戻す

片付けや捨てることというのはありがたいことに、仕事や恋愛だけでなく、夫婦関係や子育て、さらに友人関係などを仕切り直すきっかけにもなります。

あなたのバッグや部屋にあるものは、自分で買ったモノもあれば、人からもらったモノもあるでしょう。いずれにしても、あなたが持ち込まない限りはその場にはないわけです。ですから、バッグや部屋にあるものを見直すことで、あなたの生き方や考え方を見直すことにもつながるのです。

そして、片付けは誰かに協力してもらわなくても自分ひとりで気軽にできる場所がいいですね。2017年、幸先よくスタートできた方はさらに飛躍するために、グダグダのスタートになってしまった方は仕切り直すためにも、ぜひ片付けを活用してみてくださいね。



メンタルコーチ・問題解決の専門家 大平朝子（おおひら・あさこ）

国家公務員試験を首席合格。裁判所書記官として、年間2000件の裁判記録を扱う中で問題解決のある法則を発見し、独立。教育団体、女性団体、外国人リーダー向けに、講演・研修を実施。無職だった夫をベストセラー作家にした手法が注目され、女性経営者など2300人以上の問題解決に携わる。著書に夫婦初共著となる「ダラダラ気分を一瞬で変える 小さな習慣」（サンクチュアリ出版）。

配管メーカーがブロック玩具開発 工場模型もつくれます 朝日新聞 2017年1月23日



チューブロックを手にする鈴木隆也さん＝尼崎市西長洲町3丁目
複雑に枝分かれし、カーブを繰り返しながらタンクとタンクを連結するパイプライン。鈴木隆也さん（41）は、まるでコンビナートのような工場模型を組み立てられるブロック玩具「チューブロック」を開発し、昨夏、兵庫県尼崎市に設立した新会社で商品化した。

4年前、配管資材メーカー「ベンカン」（本社・群馬県）の社員として工場のある尼崎市を拠点に営業活動をしていた時、「これまででない新事業を考えてくれ」と特命を受けた。事業開発室長になったが、室員は自分1人。社内からアイデアを募り、有志のチームで試行錯誤が始まった。

配管技術を骨組みに使ったインテリア家具、サッカーゴール……。いろいろ試したが、コストなどがネックで断念。そんな中、浮上したのがブロック玩具案だった。「配管の継ぎ手で家具の骨組みをデザインしていた時、『パズルみたいで面白いね』という声が出たので、これ

はいけるかも……と」

室員らと工夫を重ね、3Dプリンターでピースを試作。遊ぶと、工場模型や動物などのキャラクター、ペン立てなどの雑貨とバリエーションが予想以上に多く、夢中になる面白さだった。

昨年8月、ベンカンのグループ企業として株式会社チューブブロックを立ち上げ、社長に就任。PR文句は「配管資材メーカーが開発したユニークなブロック玩具」。遊んだ子どもたちが都市のライフラインに欠かせない配管技術に興味を持ってくれるのでは。そんな期待も抱いている。(宮武努)

「大人のひきこもり」平均22年、支援途絶える 読売新聞 2017年01月23日

40歳以上の「ひきこもり」に関して民間団体が行った初の実態調査で、ひきこもりが長く続いている間に行政などの支援が途絶えたり、生活時間が昼夜逆転したりしている傾向が明らかになった。

内閣府は昨年9月、15～39歳のひきこもりが約54万人に上るとの推計結果を公表したが、増加しているとされる「大人のひきこもり」の実態は不明だった。「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」(東京)が厚生労働省の助成を受け、同月以降、40歳以上の61人について家族らへの聞き取りを実施。今月22日、名古屋市内で中間報告を行った。

それによると、ひきこもりの平均期間は22年に及び、一度は行政や病院の支援を受けたのに、その後に途絶えていたケースが半数に上った。ひきこもりの間に見られた行動は、昼夜逆転(49人)や家庭内暴力(15人)などが多かった。

【主張】私立高の無償化 公立の魅力アップを急げ 産経新聞 2017年1月23日

東京都が私立高校の授業料を実質無償化する。都内在住の世帯年収760万円未満が対象というのは、比較的、裕福な家庭も含まれる。

そこまで給付を広げる必要があるのか、との違和感も残る。公立の教育再生も忘れないでもらいたい。

すでに、高校の授業料を助成する国の就学支援制度がある。公立の無償化のほか、私立に通う場合にも、年収に応じて加算されている。

都がやるのは、これに上乗せする独自の特別奨学金制度の拡充である。国の制度と合わせると、私立の年平均授業料にあたる約44万円まで給付するものだ。

小池百合子知事が明らかにした。松野博一文部科学相は「他の道府県の参考にもなる意欲的な取り組み」と歓迎している。

だが、手放して評価できるものなのか。都のような給付施策をやろうにも、財政事情からできない自治体の方が多いだろう。

このような給付施策は本来、能力、意欲のある生徒が経済的理由で勉学を諦めないようにするために行うべきものではないか。

高校では授業料以外の教材費なども多くかかる。一人親世帯など本当に経済的に困っている家庭を支えるものとしてほしい。

過去に就学支援金が出る代わりに、自校の特待生制度をやめる私学が出る問題が起きた。結果として、私学教育の独自性を損なう制度となっては本末転倒だ。

私学に通わせる家庭は、公立より学費が高くても、それに見合う教育内容、設備などを期待している場合が多い。一律給付より、生徒の事情に応じた奨学制度を促す施策の方が有効ではないか。

都は、石原慎太郎知事時代から「都立復権」を掲げ、日比谷高校など伝統校復活がみえるなど軌道に乗り始めている。

さらなる公立の魅力アップのため、各校の校風を生かした指導を支援し、意欲ある教員を支える制度などやることはまだある。

国も私立小中学校に通う児童生徒の授業料を補助する制度を新年度から始める。私立に通う生徒が増えるのは、公立への不信ともいえる。公教育再生が先である。

都の施策が全国から注目されているのは確かだ。義務教育段階を含め、学力や生徒指導

をはじめ、公教育の信頼回復を図る意欲的な施策を期待する。

社説：長時間労働 社会全体で解消したい 北海道新聞 2017年1月23日

経団連が2017年春闘の経営側方針に、「長時間労働是正」を盛り込んだ。

経済3団体のトップも年頭会見で、無制限な残業を事実上認める労使協定「三六協定」について、「何らかの歯止めが必要」と是正への意欲を示している。

人件費抑制の思惑もうかがえるが、長時間労働解消は労働側も望むところだろう。

折しも、長時間労働に起因する問題が、大手企業で相次いで明らかになった。

悲惨な事態を繰り返さぬよう、労使で長時間労働の問題点を洗い出し、よりよい労働環境づくりに努めなければならない。

新入社員に三六協定で定めた上限を超える残業を強いたとして、広告大手電通と当時の上司が、労働基準法違反容疑で書類送検されたのは、昨年12月末だった。社員は自殺に追い込まれている。

次いで年明けには、三菱電機が新入社員の過重労働をめぐり、同様の容疑で書類送検された。

さらに関西電力は、管理職の過労自殺をきっかけに、厚生労働省から、全社員の労働時間管理を徹底するよう勧告を受けている。

新入社員から管理職まで過重労働が広がる実情を、深刻に受け止めざるを得ない。

連合によると、フルタイム労働者の15年の年間総実労働時間は2026時間に上る。過去20年間あまり変化がみられず、有給休暇の取得率も上がっていない。

厚労省が15年に実施した調査でも、健康障害の目安「過労死ライン」である月80時間以上の残業をした従業員がいる会社は、全体の2割超だ。

働き過ぎを防ぐことは、喫緊の課題である。企業には早急な取り組みが求められる。

翌日の出勤までに一定の休息期間を保障する勤務間インターバルや、在宅勤務、フレックスタイム制の導入などを、積極的に検討してもらいたい。

人工知能(AI)やロボットの活用で、労働生産性を高める工夫も有効ではないか。

人手に余裕のない中小企業に対する政府の支援も必要だろう。

一方で、労働力不足に対応するには、主婦や高齢者が働きやすい環境を整えることも重要になる。そのためには、子育てや介護に関する制度の充実が欠かせない。

長時間労働の防止は労働政策に限らず福祉など各分野に及ぶ。社会全体で、この問題に向き合わなければならない。

社説：これからも声を上げて 週のはじめに考える 中日新聞 2017年1月23日

トランプ大統領の米国が動きだしました。不安ですが、動じることなく暮らしと平和を守り育てなければいけません。声を上げ続けることで。

今までの常識が通用しなくなる。まるで印画紙のように白と黒が、正と邪がぐるぐると逆転する。そんな戸惑いなのかもしれません。

大統領就任式の少し前の今月上旬、カリフォルニア州ビバリーヒルズの映画賞授賞式で、女優のメリル・ストリープさんがトランプ次期大統領を批判しました。

「軽蔑は軽蔑を、暴力は暴力を招きます。権力者がその地位を使って人をいじめるなら、(それを許すなら)私たち全員の負けです」

口先の正論はいらない

差別的な発言を繰り返す権力者から人権や自由、民主主義を守ろうとする堂々とした批判です。拍手喝采したい…ところですが、今回は少し違いました。トランプ氏を批判してきた人から、こんな声が上がったのです。

「メリル・ストリープの演説こそトランプを勝たせた理由だ」

「ハリウッドの大女優」が象徴する富と名声…。米国社会で最も恵まれた場所にいるエリートたちは、建前を繰り返すだけで、現実の矛盾、目の前の貧困、広がる一方の貧富の格差を放置してきた。口先の批判はポーズで、実は既得権を、居心地のいい現状を守ろうとしている。

「変えてくれるのはエリートたちの正論ではない。トランプだ」一格差に対する大衆の怒りとエリートへの不信感が生み出した米国の分断の姿です。

私たちの国は大丈夫でしょうか。

経済の低迷が二十年以上続き、米国を後追いするように格差が広がりました。

心配な平和のゆくえ

四年余り前に政権に復帰した安倍晋三首相は、大企業の成長を優先して景気を回復させ、富が働く人たちにも滴り落ちるのを待つ政策を進めました。強いものをより強くすることで恩恵を下に広げようという上からの政策です。

ところがうまくいかない。

そして変化の兆しが見え始めました。自らの失政は認めないで済むように、慎重に少しずつですが、国民目線の下からの政策に舵（かじ）を切り始めたのです。格差是正を前面に出し、二十日の施政方針演説では「働き方改革」を柱に据えました。

暮らしの現場は深刻です。シングルマザーの苦境、子どもや財産のないお年寄りの貧困、進学を諦めざるを得ない学生、結婚できない非正規の若者たち。そして広告最大手の電通で高橋まつりさんの悲劇が起きました。

高名な政治家一家の三世で、恵まれた暮らししか知らないエリートの首相を、少しでもこうした現実に向き合わせたい。そうさせる力は何でしょうか。

国民から上がる声、権力者への批判、それを伝え広げる多様なメディア、その土台になっている言論の自由です。

それがなければどんなに悲しい現実も多くの人々の知るところとなりません。取り巻きが都合のいい情報しか耳に入れない権力者、首相や電通の社長は現場の実情を知るよしもないでしょう。

ネットで広がった「保育園落ちた日本死ね」は待機児童問題を動かす原動力になりました。まつりさんの悲劇を訴える母、幸美さんの言葉と涙は、新聞やテレビを通して国民の心を揺さぶり、この国の労使がどっぴりと潰かってきた働き方や慣習を変えようとしています。

暮らしの基にある平和の行方も心配です。戦後日本の平和主義、不戦の誓いに対する安倍首相や自民党の姿勢です。憲法改正が悲願の首相は、違憲の疑いが強い安保関連法制を強行採決し、しばしば報道に圧力をかけて批判を浴びてきました。

その一方で、戦後七十年談話や真珠湾献花では平和を求める世論に配慮する姿勢もみせます。

トランプ大統領の下、米国が世界のリーダーの座を降りれば、国際秩序は揺らぎ緊張が高まるでしょう。そのときの首相の対応が心配です。

権力者に厳しい批判を

十八日の最後の会見。記者たちを前にオバマ大統領はこんなふうに語り始めました。

「強大な権力を持つ者たちに懐疑的で厳しい質問をぶつけ、お世辞を言うのではなく、批判的な目を向けるのがあなた方の役目だ」「私たちの民主主義は、あなたたちメディアを必要としている」そして自身、一市民として「今後も声を上げる」と。私たちもいっしょに、もっともっと声を上げなければ。明日の暮らしと平和のために。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

